

建築実務演習レポート

講演者 菰田 宗義氏 (積水ハウス 管理部)
メンバー 山下繁喜 佐藤智広 松尾雄太 高橋研伍
本村龍平 米田剛史 八木康輔 吉田雄

今回の講義で、今まで理解できていなかったハウスメーカーの仕事を分かりやすく説明していただいた。それにより分かったこととして以下のようなものがある。

- ・ なぜ住宅を建てるのか？

建物は人間の健康、財産を自然から守るためにある。これは建築に関わるすべての人々はこのことを意識して建物をつくらなくてはならないということである。また、ハウスメーカーというのは直接人の生死に関わる仕事をしているということを肝に銘じておかなければならない。

- ・ ハウスメーカーとは

ハウスメーカーとは建築事務所や工務店とは異なり、部材を工場で作ることにより、製造の上で一定の安定を得ることができる。また事業展開するための営業職が存在する。その営業により契約から住宅の引渡しまで一括して行うことができる。また日本では、ハウスメーカーの他に、設計事務所、工務店の3つが主に住宅を建てているが、諸外国ではハウスメーカーという職種はなく、ビルダーと言われる人々が住宅を建てている。

- ・ ハウスメーカーの特色

ハウスメーカーは年間に多数の物件を手がけている。住宅では半年で25件、図面だけでも一人で年間50件を超える物件を手がけている。このような多数の物件に対応するために会社の規格にあった建物の寸法(=50センチ単位のグリッド)を用いている。グリッドを用いることにより多くの建物を造る事ができるが、100%自由な設計の住宅を建てることはできないといえる。工場で建物の部材を造ることにより、現場でする作業が省けて、早い期間で住宅が完成することができる。そうすることによって作業のシステム化が図ることができる。また利点として製品に安定性がでてくるといえる。ハウスメーカーとして、工業化認定を受けているので、様々な建物を政府に申請することなく設計することができる。また、一般の工務店では作ることができないような大規模な計画(例 防衛庁跡地を利用した大型建物の計画など)を行うことができる。展示場をおくことで、一般のお客さんに公開し気軽に物件に触れてもらう機会をつくることことができる。またハウスメーカーと工務店な

どと異なる点でハウスメーカーには営業という職業があるが、ここでは現在学んでいる建築の知識はほとんど必要なく、経済などを学んできた人が多くいる。

- ・ 工業化認定の利点

工業化認定を受けていないと構造計算、断面図など数多くの図面をかいてお役所の認定を受けなければならないが、工業化認定の定めたルールにそって図面をひいてその認定を受けることができれば、構造計算、断面図など数多くの図面をかかなくてよい。建物の構造にかかわること以外に関して建築基準法をまもっていれば建物を作ることができるという。多くのハウスメーカーはこのように工業化認定を受けているため、年間で100件もの住宅をてがけることができる。

- ・ 授業風景



・質問について

質問で、でてきたものの中で興味をひかれたものとして『ハウスメーカーは部分的なものしか設計できないのですか?』というものがある。その質問に対して菰田さんは、0から細かいものを作ることはできないが、限られた会社の規格のなかでインテリア、内装、プランなどは個人の個性を出すことができると言われた。また、一般の設計事務所やゼネコンに比べて、一人で設計の仕事を任せられるまでの期間が極端に短く、そのため責任が大きくなってしまう。しかし、設計の好きな人は、とてもやりがいのある仕事ができると思われる。

・まとめ

私達は、今回の実務演習でハウスメーカーに対するイメージが大きく変わったと思う。話を聞く前は、商品が住宅というだけで普通のサラリーマンと変わらないものと思っていた。住宅もデザインにおいて決められた形しかできないと思っていた。しかし、実際はそれぞれの会社でのきかきはあるが、その限られたなかで、内装、インテリアなどで個性を出すことができるとわかった。また、多くの仕事をこなすうえで、設計事務所やゼネコンよりも優れていると思った。今後の就職活動をするうえで住宅メーカーに対する考え方が変わったことで、よりいっそう選択肢が増えたと思った。また今回講師をしてくださった菰田さんはハウスメーカーと工務店、設計事務所の違いを多く出してくださったので、ハウスメーカーの建てる住宅は施工期間が短くてすむなどの多くの利点がり理解できました。